

様式2 令和3年度 清瀬市立清瀬第五中学校 学校評価表

<b>学校教育目標</b>		<b>育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動</b>	
・和敬 明るく思いやりのある人 ・思索 深く静かに考える人 ・剛健 たくましく、がまん強い人		育成を目指す資質能力 ・主として学びに向かう力、人間性等の涵養 ・主として思考力、判断力、表現力等の育成 ・主として心身の健康、豊かなスポーツライフの育成	
<b>目指す学校像(ビジョン)</b>		特色ある教育活動 体験的な学習活動を主軸として、創造性豊かで自他を尊重する精神を身に付けた人間性豊かな生徒を育成する。 そして明るく平和な文化国家の実現に尽くす、誠実で実行力のある人間を育成する。 ・人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を身に付けさせる。 ・各教科の基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けさせる。 ・健康で安全な生活を送るための基礎となる知識や技能を身に付けさせるとともに、体育科の授業を軸として体力向上を図る。また、家庭や地域社会と連携して体験的な学習活動を充実させる。	
<b>【目指す学校像】</b>	○生徒にとって、楽しく、行きがい(生きがい)のある学校 ○保護者にとって、親しみが有り、地域に誇りに思われる学校 ○教職員にとって、自己研鑽に励み、協力して進める学校		
<b>【目指す児童・生徒像】</b>	○和敬・・・明るく思いやりのある人 「チームで働く力」「発信力」「傾聴力」「柔軟性」「状況把握力」の育成 ○思索・・・深く静かに考える人 「考え抜く力」「課題発見・解決力」「計画力」「創造力」の育成 ○剛健・・・たくましく、がまん強い人 「前に踏み出す力」「主体性」「働きかけ力」「実行力」「規律性」「ストレスコントロール力」の育成		
<b>【目指す教師像】</b>	○常に生徒のことを第一に考える教師 ○日々研修に努め、チャレンジ精神をもって授業の改善、充実に取り組む教師 ○生徒のためという同一の視点で立ち寄り協力し、支え合う ○体罰や不適切な指導を許さぬ教師		

**前年度までの学校経営上の成果と課題**

[成果] ・毎日の学校の様子や、給食の内容などの情報を学校ホームページによって発信することで、より今の学校の様子が分かるようになった。  
 ・体験的な学習は、「生きて働く知識・技能」の涵養に向けた取組として効果をあげている。

[課題] ・ICT機器を活用し、生徒の興味・関心を引き出す授業の工夫が必要である。  
 ・特別な支援が必要な生徒が、増えている傾向にあり、サポートルームの有効活用が一層大切になる。

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策
		取組評価	成果評価	学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策
確かな学力の向上	特別な支援が必要な生徒に対して、しっかりと見取りを行う。	4	3	授業公開が少なかったため、授業の様子を見ることができませんでしたが、タブレットを持ち帰り、オンライン授業を取り入れたりと、工夫されているのがよくわかりました。	オンライン授業を本格的に実施し、試行錯誤しながら授業を行った。ICT推進委員会を中心に、それぞれの教員が行っている状況を報告しながら、研修を行った。今後も情報共有を行いながら、創意工夫をして、より生徒が分かりやすいオンライン授業を行っていききたい。また、普段の授業においてもICT機器を活用しながら、生徒が興味関心を持てるような授業展開を目指す。
	授業のねらいを明確にし、流れ、振り返りを視覚に訴えた授業を行う。	4	3		
豊かな心の育成	「いつでも誰とでも相談週間」やいじめ調査、学級環境適応感尺度(アセス)を実施し、生徒一人一人の実態を把握・分析して指導に活かす。	4	3	何かあっても、アンケートに書いたり、自分から言い出せない生徒が多いと思います。日頃から生徒の顔を見て、表情の変化などから読み取っていたらとお願いしたいです。	年3回行っているいじめ実態把握調査を次年度も継続し、いじめの予防や早期発見、迅速な対応に努めていく。また、この調査に関わらず、日常の生徒の様子の変化に、常に意識を持ちながら学校生活を送っていく。次年度も週1回、校内委員会を実施し生徒の情報交換を行っていくが、近年SNSによるトラブル等も発生しているため、セーフティ教室等でも指導していく。
	学級活動や総合的な学習、生徒会活動(あいさつ運動、募金活動、ボランティア活動など)を通し、公共心や社会性を育む。	4	2	学校訪問した時、生徒のみなさんが必ずあいさつしてくれました。非常に好印象です。また、ボランティアなども積極的に行われていると思いますので、社会性は培われていると思います。	コロナ過で制限されている活動が少しずつできるようになってきたが、以前と比較すると十分とは言えない。今後、五中の中心となる体験的な活動を通して、学ぶこと、感じること、得ることを大切にしていく。
健やかな体の育成	専門家による指導など生徒が体験的に学ぶ機会を設ける。	4	2	コロナ過でいろいろと難しい中、少しでも生徒にできることを学習させてもらい、良かったと思います。小学校でやったことですが、赤ちゃんを抱っこさせてもらう機会を作れたら命の大切さをより分かってもらえるのではないのでしょうか。	外部人材を招いての活動をできる限り実施し、専門家の方による体験的な学習の機会を持つことができ、生徒にとっては、貴重な経験になった。「赤ちゃんプロジェクト」については、例年のように赤ちゃんに直接触れることはできないが、オンラインで実施する予定です。
	健康・安全に係る取組を生徒会活動などを通して実施し、生徒の主体性を育てる。	3	3		
特別支援教育の充実	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開(教室・流れ・振り返りの表示)の推進、教室環境の整備を充実進捗する。	4	3	情報共有をして、指導にあたっていることとはとても良いと思います。内容が伝わりやすいことと合うので、情報発信(掲示物など)を積極的に行うことで、生徒も理解できたので良かったと思います。	今後も、巡回指導教員を中心に、校内掲示やサポートルーム通信などで、より理解を深めていく。また、休み時間にサポートルームを開放することによって、生徒にもサポートルームの役割や内容についての情報発信をしていく。
	サポートルーム教員との連携を密にとり、支援を必要とする生徒の情報を全教職員で共有し、組織的に対応する。	4	4		
本校の特色	学校ホームページと一斉メールを有効に活用し、日々の教育活動を適時に的確に掲載・発信する。	3	4	学校にあまり行かれない中、ホームページは学校の様子を知ることが出来る情報源です。子供との会話のきっかけにもなるし、他学年の事も分かり、良いと思います。補充教室は、受験生にとって、とても良いと思います。聞きたい時に誰かに質問できるのは、勉強に対してのストレスもなくなると思いました。	学校の様子を随時ホームページで情報発信していくことは、特にコロナ過で、授業公開を行うことが困難であるため、とても大切なことであると感じる。今後もリアルタイムに情報発信していく。補充教室に関しては、学校支援本部の協力により、本年度実施することが出来た。地域人材の情報を漏らさずに得られるように注意し、人材確保を的確に行い、来年度も実施していく。
	保護者を含めた、地域人材の有効活用を積極的に行う。	4	3		